

ネットワーク基幹研究プロジェクト地域研究推進事業
「北東アジア地域研究」

中間評価報告書（第2次評価）

1. 総合評価

順調に進んでおり、質的・量的側面から特筆すべき成果が見られる

2. 総合所見及び特記事項

（総合所見）

「北東アジア地域の文化、社会、政治、経済、環境等の現状について学際的・総合的に調査研究」を行うという目標に沿って順調に進捗している。いずれの拠点も、驚異的に多くの成果物を出し、また展示会などもしばしば開催するなど、社会への情報発信が十分に行われている。さらに拠点間の連携や共同作業も進んでいる。これらに加え、海外との共同作業も、幅広く展開されている。北東アジア研究が中国研究に偏らず、その他の地域における研究に大きな比重が置かれていることは望ましい。それに際しては、モンゴルに設置したリエゾン・オフィスが重要な役割を果たしていると考えられる。また「ボーダー・ツーリズム」という概念も非常に興味深く、これは社会的にも大きな関心を呼ぶと考えられる。

（特記事項）

特に、優れている点

- ・「研究体制」に関わり、国際合同シンポジウムの開催を通じて、北東アジアという地域において、自然環境に基づく生業を基盤とした文化や文明のあり方から、現代の「共生」のあり方における諸相を、6つの拠点のネットワークで明らかにしつつある。

6つの拠点がネットワークを結んでいくあり方は、ある程度実現されており、上述のとおり大きな成果を挙げている。今後は中心拠点である民博が、今まで以上に領域横断的に全体のネットワークの構造を強め、さらに大きな成果を挙げることが期待される。それだけの基礎は十分に形成されている。